



2023年5月10日

各位

会社名 ヤマエグループホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 網田 日出人
(コード番号：7130 東証プライム・福証)
問合せ先 常務執行役員 谷 昭彦
経営企画部長
(Tel. 092-412-0711)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2025年度を最終年度とする3カ年の中期経営計画を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 基本方針

本中期経営計画では、新たにグループ理念およびパーパス(存在意義)と中長期的に目指す長期ビジョンを定め、この実現に向けて取り組んでまいります。

(グループ理念) 私たちは、人・企業・社会をつなぎ、多様な豊かさと暮らしを一人ひとりの生活にお届けすることを通じて地域の発展、そして持続可能な社会の実現に向けて貢献し続けてまいります

(パーパス) 「流通のトータルサポーター」として多様な豊かさと暮らしを一人ひとりの生活にお届けする

(長期ビジョン) サプライチェーンのあらゆる場面でビジネスを創造し、サステナブルな成長を目指す企業グループへ

2. 中期経営計画の概要

(名称) 「Progress Go' 25」(プロGRESS ゴー トゥー ファイブ)

(主な経営指標)

	2025年度最終目標
売上高	7,200億円
経常利益 (経常利益率)	180億円 (2.5%)
ROE	10%以上

詳細につきましては、別添資料をご参照ください。

以上

The logo for Yamae Group Holdings features a large, stylized blue 'Y' shape that curves at the top and bottom. The text 'YAMAE' is written in white, bold, uppercase letters across the upper part of the 'Y', and 'GROUP HOLDINGS' is written in white, bold, uppercase letters across the lower part of the 'Y'.

YAMAE
GROUP HOLDINGS

新中期経営計画

Progress Go'25

2023年5月10日

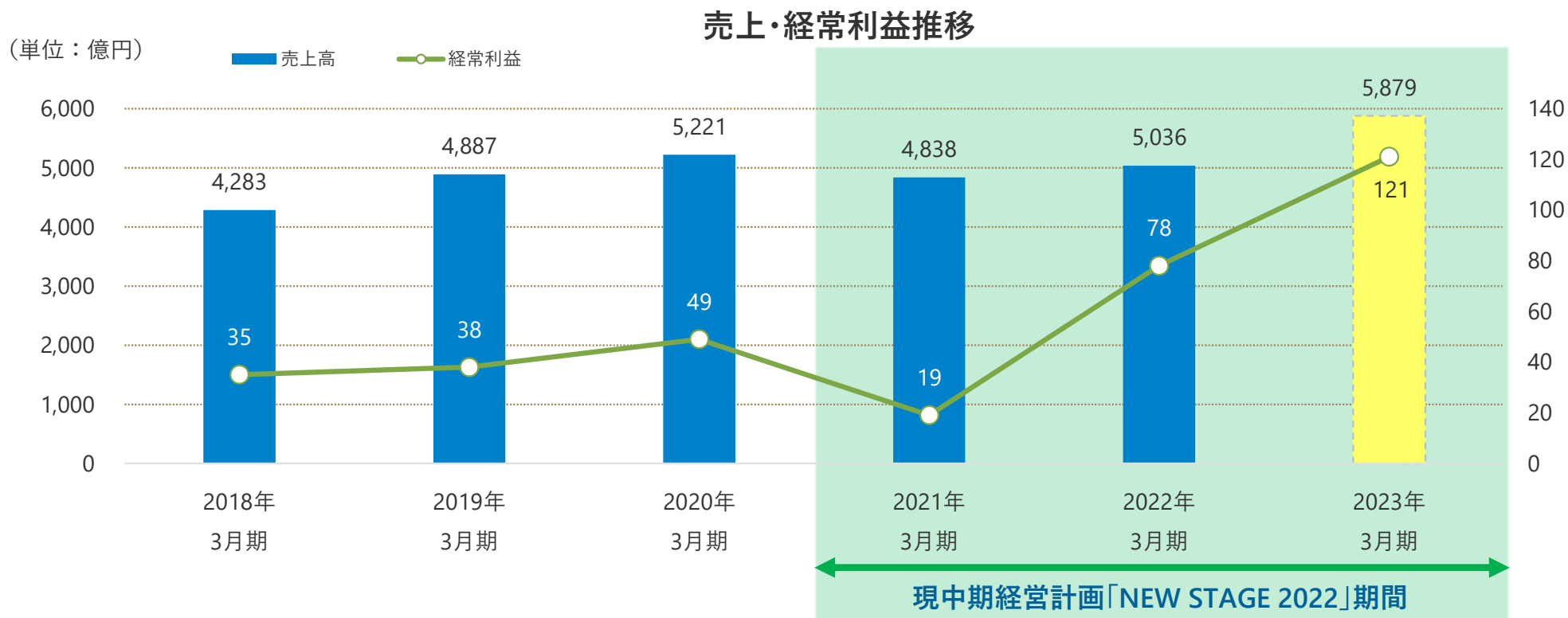
東証プライム・福証

証券コード
7130

前中期経営計画(NEW STAGE 2022)の振り返り

- ・「健康」や「BtoC」など既存の枠にとらわれない新たな事業領域への挑戦
- ・M & Aによる水平・垂直・新規事業分野への進出、事業エリア・事業規模拡大を実施
- ・AIや自動化に伴う効率化とコスト構造改革の実施により物流事業の改善が着実に進行
- ・**2023年3月期の目標数値(経常利益72億円、経常利益率1.2%)は、1年前倒し(2022年3月期)で達成**

前中期経営計画は概ね達成



— 物流戦略の主な取り組み —

AIをはじめとした先端技術活用による次世代流通モデルの追求

- ・熊本物流センター稼働(2020年10月)
- ・自動倉庫・AGV・無人フォークリフト・アームロボットの導入
- ・ヤマエ久野物流部門再編成
- ・拡張性、柔軟性を企図した次期基幹システム構築着手



熊本物流センター稼働



AGV(無人搬送車)導入



自動倉庫導入

— M&A戦略の主な取り組み —

M & Aによる水平・垂直・新規事業分野への進出を加速

- ・鹿島技研を子会社化(2020年7月)
- ・栄住産業を子会社化(2021年4月)
- ・アスティークを子会社化(2022年4月)
- ・丸永を子会社化(2022年5月)
- ・九州栄孝グループを子会社化(2022年7月)
- ・日本ピザハット・コーポレーションを子会社化(2022年8月)
- ・Arco Marketing Pte Ltdを子会社化(2022年10月)
- ・クイックスを子会社化(2022年11月)



アスティーク



丸永



九州栄孝グループ

— 新規事業戦略の主な取り組み —

新しい事業領域への挑戦 — 「食」「住」に次ぐ第三の柱を模索

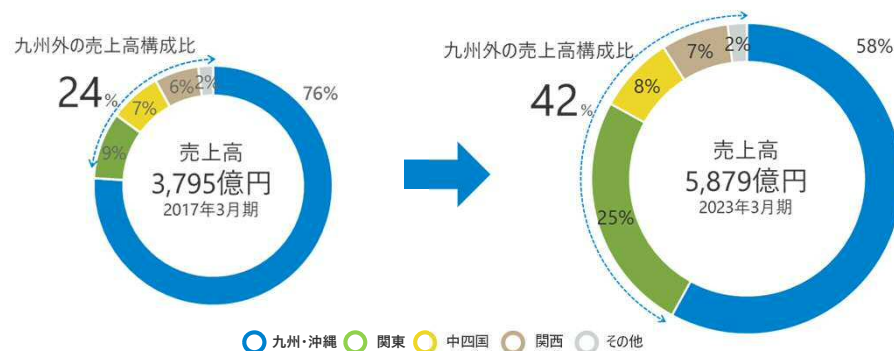
- ・日本ピザハット・コーポレーションを子会社化し、BtoC事業に参入
- ・トリゼンクオリティオーシャンズを設立し循環型ビジネスに参入



— エリア戦略の主な取り組み —

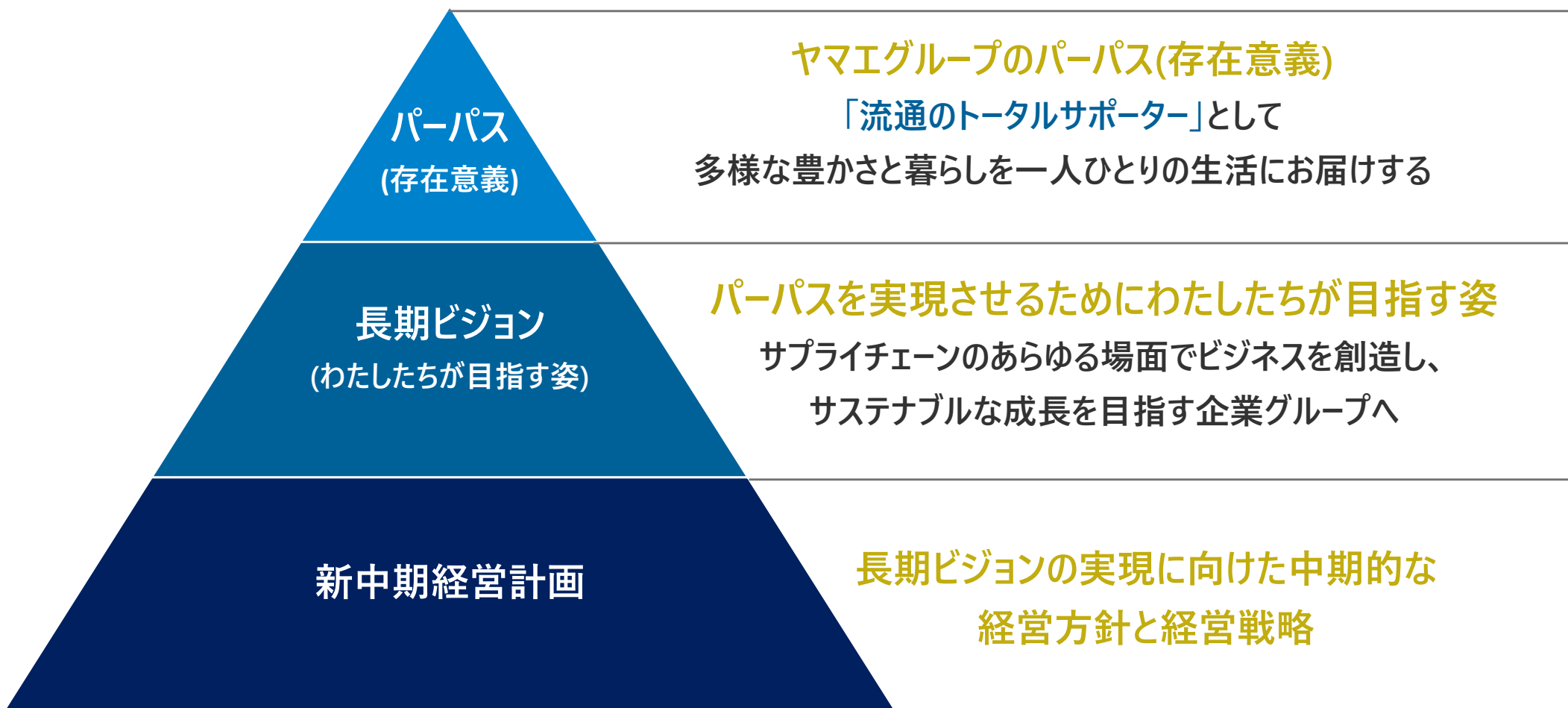
九州で圧倒的シェアの堅守 / 九州外エリアでの基盤確立

- ・顧客との共生を核とした事業エリア拡大と戦略的なM&Aの実施
- ・常温・チルド弁当、チルド惣菜等の製造に対応した新工場設立(進行中)



－ グループ理念 －

私たちは、人・企業・社会をつなぎ、多様な豊かさと暮らしを一人ひとりの生活にお届けすることを通じて地域の発展、そして持続可能な社会の実現に向けて貢献し続けてまいります。



YAMAE GROUP

わたしたちは、サプライチェーンのあらゆる場面でビジネスを創造します。
生産者と消費者をつなぎ、多様な豊かさと暮らしを一人ひとりの生活にお届けし、人・企業・社会をつないでいくことでサステナブルに成長できる企業グループを目指します。

サプライチェーンのあらゆる場面でビジネス創造

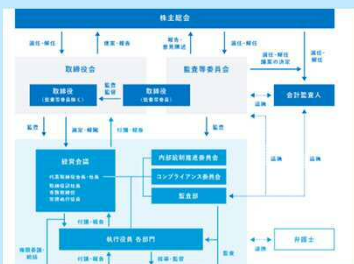


生産者と消費者をつなぎ、豊かな暮らしをお届け



必要な機能・制度等の充実

ガバナンス強化



サステナビリティ戦略の推進



DX活用による業務改革



人的資本の価値向上



次期基幹システム構築



サステナブルに成長できる企業グループを目指す

－ 新中期経営計画名称 －

Progress Go'25

(プログレス ゴー トゥー ファイブ)

わたしたちは2025年へ向け更に進化します。

－ 4つの責任(経営使命) －

・「社会」に対する責任

ヤマエグループは、食と住を中心に「安心・安全・健康・環境」に配慮した商品・サービスの提供を通じて、企業の社会的責任を果たします。

・「顧客」に対する責任

ヤマエグループは、創業の地である九州を基盤に、お取引先との共生を核としたフルライン営業体制を確立し、このビジネスモデルを全国・海外へ展開することで商圈の拡大を図ります。

・「社員」に対する責任

ヤマエグループは、社員一人ひとりが自主性、積極性を持って行動し、企業の成長を通じて、高い人格形成と自己実現を図ることを目指します。

・「株主」に対する責任

ヤマエグループは、株主にとって魅力ある企業グループとなるため、経営の信頼性・透明性を高め、企業ブランド(企業価値)の向上に努めます。

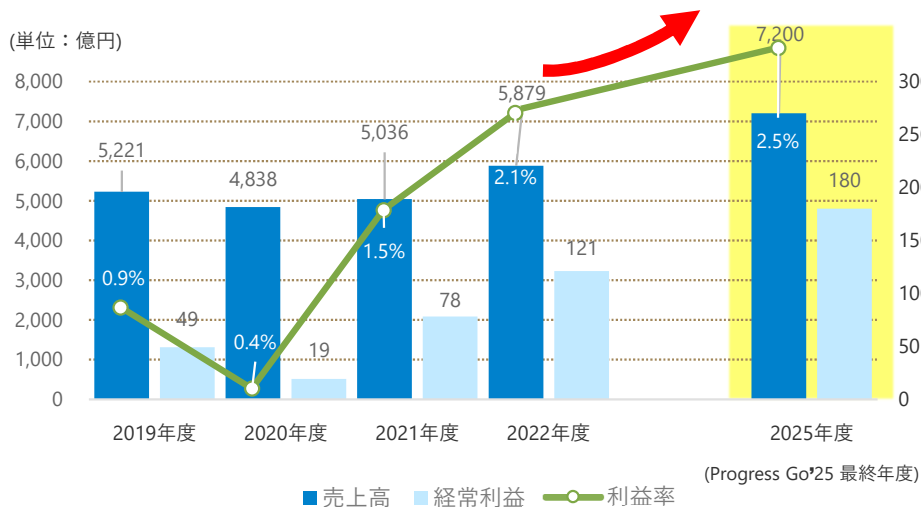
— 財務指標 —

売上高

2025年度最終目標
7,200億円

経常利益 (利益率)

2025年度最終目標
180億円(2.5%)



ROE

2025年度最終目標
10%以上

— 非財務指標 —

脱炭素社会への貢献

エネルギー消費量の削減

2030年目標
CO2排出量を2013年度から
50%削減

< 取組事例 >

- ・森林資源の保護、再生
- ・太陽光発電の取り組み
- ・水素/電気トラックへの挑戦
- ・排水熱の再利用
- ・エコアクション21への取り組み

人的資本価値向上への取り組み

重点施策

- ・女性管理職比率の上昇
- ・男性の育児休業取得比率の向上
- ・男女間賃金格差の解消

基本戦略

ガバナンス強化

- ▶ ホールディングス機能強化
- ▶ グループのガバナンス強化
- ▶ 迅速で機動的な意思決定ができる組織への変革

サステナビリティ戦略

- ▶ 一次産業への更なる取り組み強化
(生産から販売機能まで有した企業グループへの進化)
- ▶ 循環型ビジネス、脱炭素化等SDGsへの取り組み推進
- ▶ 人的資本の価値向上に向けた取り組み強化
(ダイバーシティの推進、人材育成強化、健康経営)

M&A戦略

- ▶ 事業ポートフォリオの変革による事業多角化
(新規事業およびBtoC事業拡大検討)
- ▶ グループシナジー最大化の追求
- ▶ 海外事業への更なる挑戦

エリア・物流戦略

- ▶ 事業エリアの戦略的拡大
(関東以北エリアから全国へ)
- ▶ 自動化・AIを駆使した省人化の加速と次期基幹システム構築による物流DXの推進
- ▶ エリア拡大に向けた物流機能強化

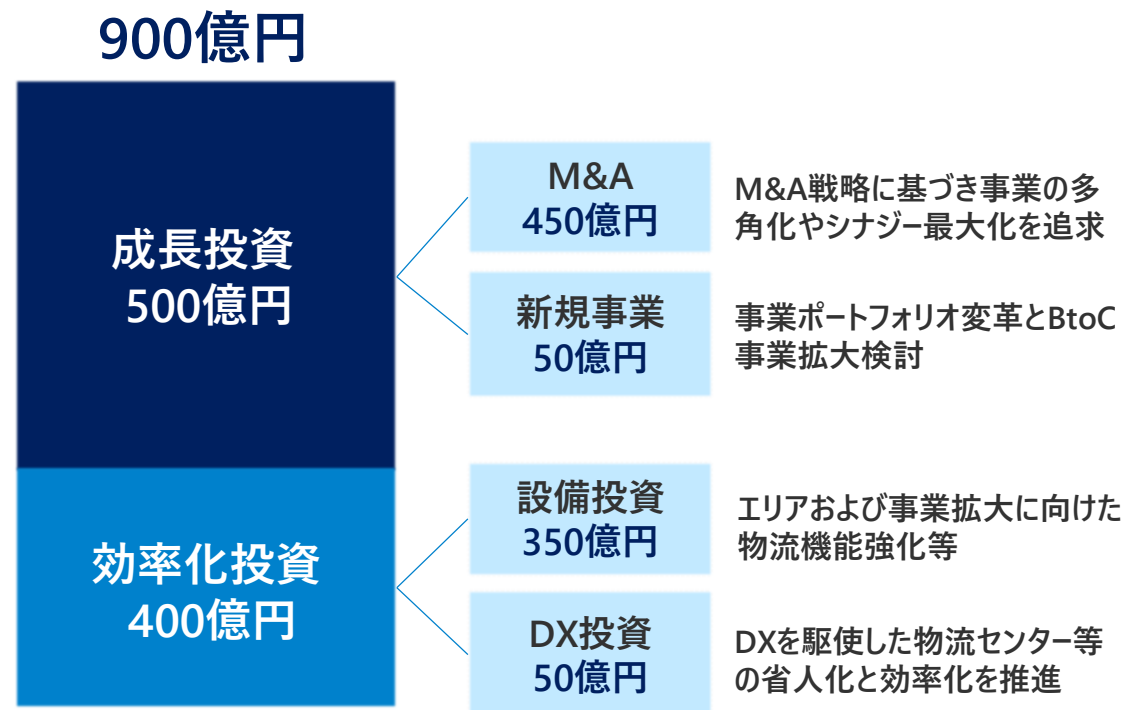
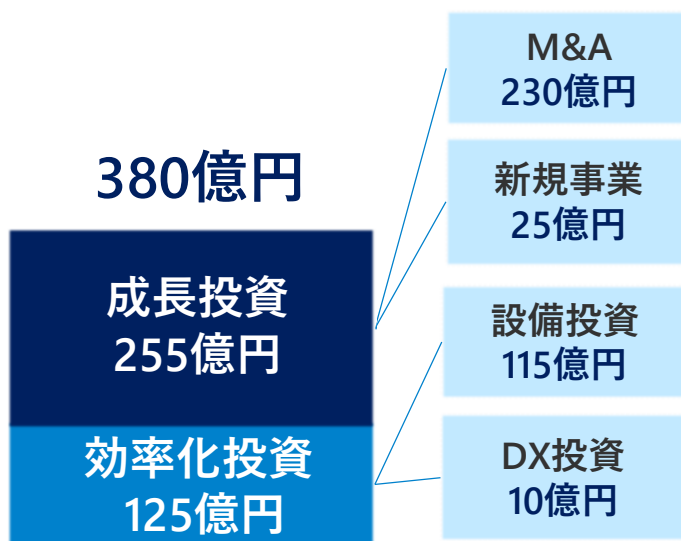
投資合計(成長・効率化投資)

900億円 (2023年度~2025年度 3カ年累計)

・M&Aおよび新規事業に関する成長投資と設備投資やDX投資に関する効率化投資を拡大することで、更なる事業領域の拡大と持続的に成長するための経営基盤の維持向上を図ってまいります。

NEW STAGE 2022 (2020年度~2022年度)

Progress Go'25 (2023年度~2025年度)



－ わたしたちのサステナビリティの考え方 －

私たちヤマエグループは、サステナビリティの視点を踏まえ、多様なステークホルダーの期待と信頼に応え、社会と当社グループが持続的に成長していくため「サステナビリティ推進委員会」を設置します。

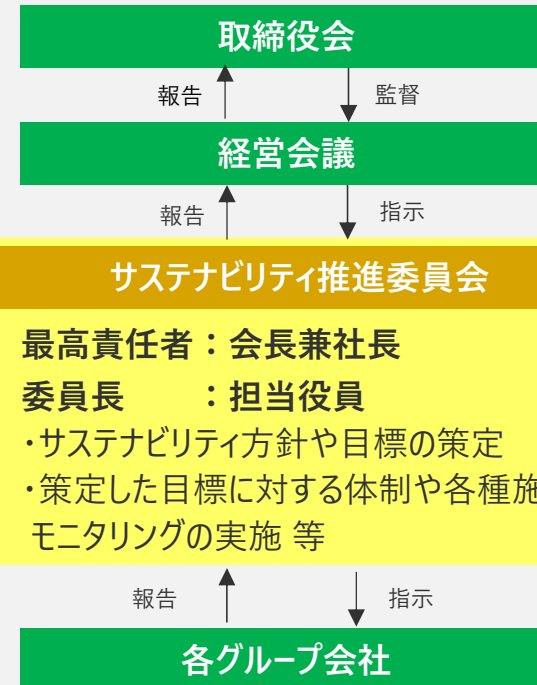
取り組みに際し、重要課題として「ヤマエグループのマテリアリティ」を掲げ、SDGs、ESGと関連付けて事業活動を推進いたします。

－ サステナビリティ推進委員会の設置 －

- ◆目的 会長兼社長を最高責任者、担当役員を委員長とするサステナビリティ推進委員会を設置し、持続可能な社会への貢献とヤマエグループの持続的な企業価値向上に向けた取り組みを推進してまいります。
- ◆体制 (最高責任者)会長兼社長、(委員長)担当役員
- ◆事務局 広報・取締役会室、経営企画部、グループガバナンス部
- ◆開催 原則として年1回のほか、必要に応じて開催



【サステナビリティ推進体制】



— 脱炭素社会への貢献 —



気候変動リスクに対する取り組み

- ▶ 水素自動車/電気自動車への挑戦
 - ・配送トラックや営業車を水素自動車、電気自動車へ切替
- ▶ 太陽光パネルの設置
 - ・工場や倉庫等の屋根に設置
 - ・蓄電池技術を活用した発電効率の向上
- ▶ 森林資源の保全活動
 - ・自治体と連携した植樹及び森林保全プロジェクトの実行
- ▶ 排水熱の再利用
 - ・排水熱を再利用した使用燃料削減
- ▶ エコアクション21への取り組み
 - ・エコアクションプランに基づいた継続的な取り組み
- ▶ DX推進による紙の削減

— 一次産業への貢献 —



生産者との協業・支援

- ▶ 青果規格外品/廃棄野菜
 - ・規格外や廃棄野菜を使用した加工製造を強化
- ▶ 持続可能な漁法の採用
 - ・「カツオの一本釣り」漁法を採用
- ▶ 産学官連携による持続可能な新たな事業創出
 - ・戦略的養殖品目の開発

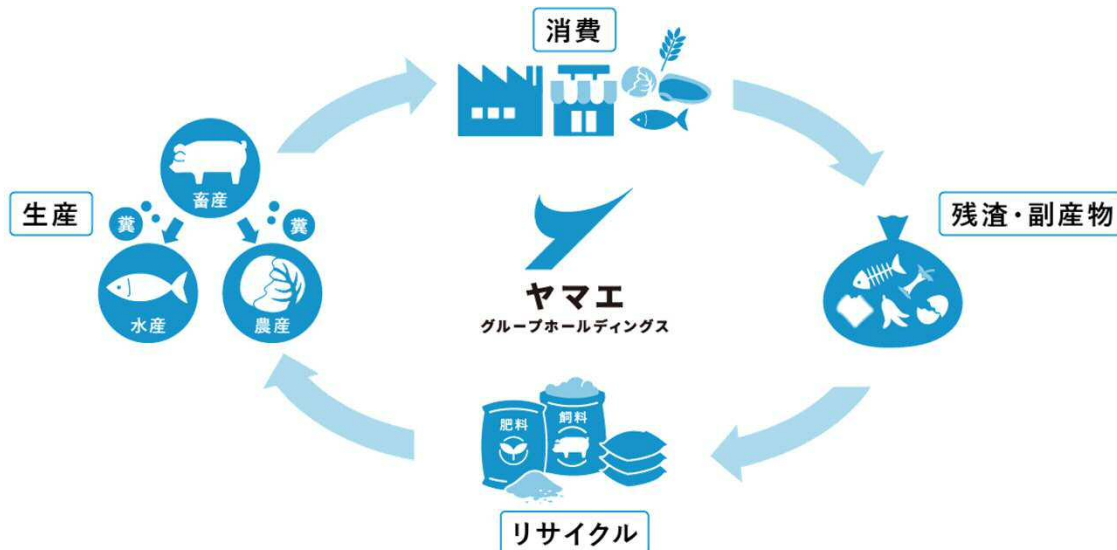
全ての工程をヤマエグループで担う



九州ブランドの農水畜産物を全国へ



— リサイクル事業の更なる推進 —



食品残渣・副産物のリサイクル・有効活用

- ▶ 副産物の有効利用
 - ・鶏ふん由来の海洋専用肥料の使用海域の拡大
- ▶ 食品残渣のリサイクル
 - ・廃棄していた食品残渣を資源として飼料や燃料、電力に循環するソリューションの推進



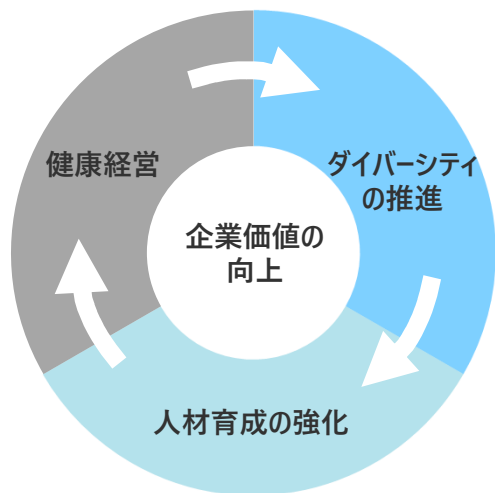
— 人的資本の価値向上 —



人的資本の価値向上に向けた取り組み

従業員のエクスペリエンス(満足度・幸福度)を高めることで、生産性の向上や離職率の低下などにつなげ最終的には従業員エンゲージメントを高めることによって企業価値の向上を目指します。

- ▶ ダイバーシティの推進
 - ・性別、国籍、人種、年齢、宗教等のあらゆる差別を禁止し、人権を尊重することで多様な価値観を取り込みイノベーションを創出
- ▶ 人材育成の強化
 - ・グループ採用や人材交流によりグループを活性化させるとともに、適材適所の配置により従業員の能力を開発
- ▶ 健康経営
 - ・従業員が心身ともに健康で安心して働ける労働環境を構築



ヤマエグループホールディングス

本資料の計画や戦略および業績に関する予想は、当社グループが現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて記述しています。なお、実際の業績等に関しては、様々な要因により当社グループの見通しと異なる場合があることをご理解くださいますようお願いいたします。